

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400152		
法人名	株式会社サポート		
事業所名	グループホームピアありた		
所在地	福岡県福岡市早良区有田7丁目1番20号		
自己評価作成日	令和1年11月11日	評価結果確定日	令和2年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和1年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

施設近辺には田んぼや畑もあり散歩に行くと昔懐かしい風景があります。近所に室見川がありそこからカモノなどの野鳥が遊びに来ます。河畔には桜並木があって春にはお花見ができます。特に力を入れていることは、外出支援や楽しい行事作りです。気分転換に天気の良い日は近所へ散歩をするよう努めています。入居者様から声を汲み取り内容に取り飽きのこないよう心掛けています。同じ敷地内に小規模多機能ホームがあり、グループホームだけでなく、在宅での介護相談も可能です。近隣にはグループ法人が設立したサービス付き高齢者住宅や特別養護老人ホームがあり、様々な需要に応える事が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ピアありた」は長崎に本社がある社会福祉法人実寿福会を母体とし、平成25年4月に創設された。同系列の特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者住宅などが隣接し、日頃から協働体制ができています。事業所は一階は小規模多機能、2階、3階の2ユニットからなる。昨年からは、管理者が2ユニットを一緒に見ており、各ユニット間の情報を職員全員でよりよく共有できるようにしている。8月には家族会を兼ね、2ユニット、小規模多機能共同で「夏まつり」を開催し回転寿司を楽しんだ。事業所での行事の案内は自治会長、民生委員及び公民館にも案内状を送付する。公民館では文化祭、発表会もあり、見学に行くなど地域との連携に積極的に取り組んでいる。周囲は自然が多く河畔に桜並木があり、野鳥も遊びに来る。春には室見川散策、紅葉狩り、餅つき大会など季節の外も出もっている。「家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切に地域と共に支援します」と事業所の理念にあるよう、今後も発展が大いに期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成27年度に職員全員で決定した理念を実践している。事務室内に掲示する他名札の裏にも挟み込んでいる。ミーティング時に唱和をしている。	事業主体法人の基本理念は3S「スマイル、セフティ、スピーディー」である。事業所理念は職員全員で意見を出し合い、話し合い作成した。事務所内に掲示し又各自名札の裏に挟み込み、ミーティング時に唱和し全員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りに利用者様と一緒に参加している。近所の保育園から歌とふれあいの訪問が定期的に行われている。ボランティアの手品や中学生の職場体験が行われている。	地域の夏祭りに利用者と一緒に参加している。事業所の夏まつりの案内を運営推進会議時又公民館などに発信している。地域ボランティアによる手品、フォークダンスの訪問がある。敬老会、ハロウィーンには保育園のこども達の訪問がある。中学生の職場体験が6月に4人二日間行われた。利用者が地域とつながり暮らし続けられるよう、地域の一員として日常的に交流している。	公民館には引き続き事業内の行事を発信したり、公民館主催の文化祭、発表会などにも参加する機会を持たれるようにしてみたらどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、利用者家族、民生委員、地域包括センターの方などに、施設で実践している介護事例など伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模多機能と合同で2カ月に1回開催。各フロアから順番で1・2名の家族が参加。自治会長や民生委員や地域包括センターの職員参加があり、地域の状況や行事の情報の報告がある。事業所からは入居者の近況やイベント、施設内での事故報告等を報告している。議事録は全家族と参加者、市役所へ郵送している。	併設の小規模多機能と合同で二か月に1回、第四火曜日14:00から開催。家族には順番に案内を行っている。自治会長、民生委員、包括支援センター職員などの参加がある。地域の状況や行事の情報をもらい家族に案内をしている。事業所からは利用者の近況、事業所の取り組みなどを行う。事故報告及び事故があった時の対応について話を行った。議事録は全家族、参加者、市役所へ郵送している。	今後家族の出席を増やすように曜日を変えて見たり、行事と同日に開催したりしてみたらどうか。議事録の送付時に、次回の運営推進会議で取り上げる内容などをわかりやすく書き込む、担当者より一筆箋を送付など、工夫してみたらどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新申請代行や郵送、情報提供書を介護保険課に貰いに行っている。また介護に対して問題があった事案に対して、保健福祉局 高齢社会部 高齢者サービス支援課 施設指導係へ相談を行っている。	介護保険の更新申請は郵送している。介護について問題があった事案に対して、市町村担当者と相談を行い、改善に努めた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けていて3か月毎委員会会議を開いている。人権擁護の外部研修を受講し、報告研修を行い啓発活動につなげている。1階の外玄関は防犯のため、電子施錠をしているが、施設内は自由に動ける。外出の要望には職員が付き添っている。夜間の転倒防止のため人感センサーを使用する場合は家族に了承後、ケアプランに上げている。	「ふくおか身体拘束0作戦」の研修を受け、内部研修を行っている。身体拘束廃止委員会を設けており、3か月ごとに委員会会議を開催。人権擁護の外部研修を受け、内部研修を行うなど、啓発活動につなげている。一階の外玄関は防犯のため電子施錠を行う。各ユニットの玄関は行き来ができる。夜間は人感センサーを設置し、家族の了解を得ている。離設はないが、3階のベランダに出たことがあった。スピーチロックの研修も受け、言葉づかいに気が付いた時にはその場で注意をしている。	

2019自己・外部評価表(グループホームピアありた)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	福岡市や地域主催の研修に行き、ミーティング時に報告研修を行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について内部研修にて学ぶ機会を持っている。玄関に行政などが発行したパンフレットを置いていて相談しやすい環境を整えている。	現在制度を利用している方はいない。9月には、市主催の「本人の意思決定と成年後見制度」の研修を受けた職員が内部研修で伝達した。玄関にパンフレットを常備しており、制度利用の希望がある時は相談しやすい環境を整え支援を行っている。利用があった時は職員に周知する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約内容変更時は、補助資料など提示し、説明を行い、不安なところ、疑問点等尋ね内容を説明した上で書面で同意を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロア入口に意見箱と玄関左手に掲示版設置している。要望や意見があった時には記録に残し運営や職員養成に反映している。また口頭で意見があった場合にも文書にして記録に残し、会議などで対応策を検討、それを説明している。	家族の面会も多く面会時に、要望、意見などをくみ取っている。家族会は8月の夏まつりと一緒に行い親睦や意見抽出にも努めている。請求業務の改善、職員の顔写真を掲示するなど利用者、家族等の意見に対し対策を検討し、運営に反映させるようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとのミーティングと共同で行う内部研修が毎月ある。それ以外でもいつでも話を聞く機会があり、改善の取組を行っている。	ユニットごとのミーティングと共同で行う内部研修が毎月ある。意見を言いやすい環境にあり職員の意見で、食事介助の時、早番が休憩時間をずらし手伝い、慣れてきたらもとに戻した。職員がヘルニアになった時は柔軟に対応してもらった。事故対策委員会から事故報告を行ったり、内部研修ではお互いに意見を出し合い改善の取組を行っている。個別面談もあり、希望がある時は本部のケアマネジャーに相談ができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業条件の改善を順次行っており、定期昇給、昇格基準の明確化、正社員への登用制度の運用により、職場の活性化を図っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女含め20～60歳代まで幅広い年代の職員がおり、レクなどで得意な事を活かして取り組んでいる。外部研修の時には勤務として参加している。実務者研修は勤務時間で受講している。資格習得の際のシフト調整も柔軟に行っている。	男女含め20～60歳代まで幅広い年代の職員がいる。休憩場所があり、一時間休憩が取れる。職員は菓子作り、レクレーション、絵画など得意な部分を生かし、生き生きと勤務している。外部研修は勤務として参加している。資格習得の際のシフト調整も柔軟に対応してくれ、ケアマネジャー、社会福祉士の資格を目指し自己研鑽に励んでいる。	

2019自己・外部評価表(グループホームピアあり)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は福岡市や地域主催の研修に参加し、ミーティング時に報告研修を行っている。特に認知症介護に経験が浅い職員には認知症ケアの研修を受けるよう調整している。	福岡市主催の研修や地域主催の研修に参加し、ミーティング時に2ユニット合同で内部研修を行う。DVDも職員みんなで見た。人権に関する意識、態度、実践力を養えるよう取り組んでいる。	人権団体、社会福祉協議会、包括支援センターなどから資料を借りて見たり、講師派遣なども考えられてみたらどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、積極的に受ける事が出来る様にスケジュールの調整行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	早良・西区のグループホームの会の会員となり、情報交換会などに参加している。職員は外部研修を通じて他社との交流機会を設けており、内部研修での報告を通じて他の職員にも周知するようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期アセスメント時は出来るだけご自宅にお伺いしてリラックスした状態でお話を伺っている。主介護者であるご家族からのお話を伺いながら、担当ケアマネからの話を参考に安心できる関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	よく話を伺うことで何に困っていらっしゃるのか、本人・家族の立場に立って理解出来る様に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様が必要としているサービスを見極め事業所で補えないサービスは外部のサービスを利用する等し対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分が得意な家事手伝いをして頂いたり、介護度が高くなってでもできる事を見つけ時間がかかってもして頂くよう支援を行っている。それに対し感謝することで、自信を持って頂ける関係性を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の衣替えをお願いしたり、介助が難しい所は相談し、一緒に解決策を考えるなどして、ご本人を共に支えるパートナーになるよう努めている。		

2019自己・外部評価表(グループホームピアあり)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの知人が訪ねてこられたり、電話があった時には取次ぎを行っている。一時帰宅や外泊などスムーズにできるよう支援している。	知人、友人の訪問もあり、遠方の家族への電話も月1回はできるようプランを立てている。お正月又は娘さんが帰ってきたときに外泊や一時帰宅などの支援を行っている。小規模多機能の習字教室に通ったり、音楽の先生が見えて、歌に参加している。馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えには入居者同士の仲を見極めている。仲の良い方々はさらに仲が深まるようにし、あまり関わらない入居者様は職員が仲介しながら支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者のご家族が活動されているボランティアを利用したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本3か月毎にアセスメント表を更新し、計画作成がご本人と家族の意向を聞き取っている。意思疎通が困難な方は会話の中で聞き取れた事を書き足している。関係機関に聞き取りをしたり、家族、知人の面会時になどに、様子を伺いながら支援につなげている。	サービス導入前に自宅を訪問、小規模多機能施設、病院などに行くこともある。本人、家族の意向を聞き取り、意思疎通が困難な時は、会話の中で聞き取れたことから意向の把握に努めている。一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力などを把握し、基本3か月毎にアセスメント表を更新し、様子を見ながら支援につなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前にご本人とご家族、又は担当ケアマネにお話しを伺っている。生活している中で新しく聞いたお話はアセスメントに情報として書き足している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録は24時間何をしているかわかる様な書き方になっている。また、各入居者毎の担当職員がケア記録をもとに毎月モニタリングをおこなっており、新しい課題が出ていないか、ケアについて提案している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護担当者が行ったモニタリングをもとに3か月ごとに介護計画を作成している。医療機関からの報告書や訪問診療時の内容、職員間のカンファレンスの内容を家族に報告し、本人の意欲と意向も確認しながらよりよく暮らすための課題とそのケアを提案している。	介護担当者は2名利用者を受け持ちモニタリングを行い、ミーティング時に報告、提案を行う。ケア記録はプランに紐付けされ評価を書きこむ箇所がある。計画に従ってケアが行われているか又ケアの結果どのような状態が見られるかを話し合い、3か月ごとに計画作成者が計画を立てる。医療機関からの報告、訪問診療時の内容、職員間のカンファレンスの内容など家族、本人と話し合い、思いにじっくり耳を傾けるようにしている。	

2019自己・外部評価表(グループホームピアありた)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全入居者様、個別のケア記録に記入し、それとは別に血圧等身等体の状態を書く健康チェック表もあり、受診の際や、ケアプランの見直しの参考にしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して柔軟に対応したいと考えている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や催しものに参加やできる限り地域の資源を利用する事で協働して地域の活性化を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医を選択し、訪問診療を受けられる。医師との連携記録も入居者ごとに管理している。通院支援は基本家族が行うが、緊急時等は柔軟に対応している。訪問歯科も希望により行っている。	全員がかかりつけ医を選択しており、月2回訪問診療を受け、医師は5か所から見えている。医師との連携記録も入居者ごとに管理している。訪問歯科も3か所から見え、薬局も月2回訪問している。皮膚科通院などは家族に対応してもらっているが、緊急時等は柔軟に対応している	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良が確認された時にかかりつけ医の看護師に状況を報告したり、状態によっては医師伝えてもらって指示を仰ぐこともある。訪問看護を利用されている利用者は日々の状態の情報を提供している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際には入院先の医療相談員やその他医療職と連絡を密に行っている。可能な限り退院カンファレンスに参加し、退院した後の生活するうえでの問題点を相談し、指示を仰いでいる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約前にターミナルの意向を伺ったり、ケアプラン更新時に伺うこともある。イメージができない家族や看取りを希望される方もいらっしゃる。訪問診療の医療機関と連携し、場合によっては訪看と連携しながら希望に添った対応を支援している。職員は外部研修で看取りのテーマには参加するよう努めている	契約前にターミナルの意向を伺ったり、ケアプラン更新時に伺う事もある。看取りは今までに7名の方がおり、今年10月に1人いらした。医師より心不全、循環不全などの話があり、職員全員でも話あいを行った。利用者、家族、医師と話し合いを行った上で、ターミナルの同意書を取るようになっている。「看取りについて」の研修は受け、職員全体で支援に取り組むことができるようになっている。	

2019自己・外部評価表(グループホームピアありた)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを備えていて、内部研修にて再度見直し、実践している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導と協力を得ている。年2回の避難・消火訓練に万遍なく職員が参加できるよう実践している。	年2回の防災訓練を行い、年1回は消防署からの立ち会いがある。水消火器による訓練を行い、水害時は事業所の2階、3階に避難する。備蓄としては水、米、缶詰、コンロのボンベなどがある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーを研修にて行っている。トイレ、入浴時など尊厳が守れる配慮に努めている。	接遇マナー、身体拘束などの内部研修を管理者が行っている。言葉かけに注意し、トイレ、入浴時などに尊厳が守れるように配慮に努めている。写真の掲載などの同意書は得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ないお話の中でも、自己決定できるような言葉かけするように周知している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、入居者様が希望される時はペースに合わせた生活の提供を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時等の洗面整容を行えるよう道具や環境を整えている。また、一緒に選服を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事に合わせて職員と一緒に食べる食事会を開催したり、利用者様が食べたいといわれる外食に付き添ったりしている。通常の食事の後には片付けを一緒に行い感謝を伝えている	行事に合わせて食事会を開催したり、外食に行ったりしている。米、汁ものは事業所で用意し、炊き立てのご飯が食べられる。誕生会に職員がケーキを作ったり、利用者と一緒におはぎをまるめる。食器拭き、お膳拭き、片付け、皿に大葉を盛りつけるなど、利用者と一緒にいき、食事が楽しみになるようにしている。	

2019自己・外部評価表(グループホームピアありた)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養管理がされている食材配達業者を利用して調理・提供を行っている。記録をする事で栄養や水分が不足しないよう心掛けている。苦手な食材等は食べやすい様に調理方法に工夫をして提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の口腔ケアへの声掛けや介助を行っている。適切なケアが行えるよう複数の訪問歯科と連携を取っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけることで個々のパターンを把握し排泄の失敗が減らせるよう努めている。	排泄表をつけることで個々のパターンを把握している。日中、ベッド上でおむつ交換をしていた方がトイレで排泄できるようになったり、リハビリパンツから布パンツにパッドになったり、排泄の失敗が減ったりと自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行訓練等の運動や水分摂取を促し便秘予防に心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴があまり好きではない利用者様には可能な限り希望に沿うようなタイミングで行っている	週2回、一日3名14:30~16:00の入浴時間がある。個浴で毎回湯を入れ替えている。入浴拒否がある時は、違う職員が声かけをしたり、利用者の希望に沿うようなタイミングで行っている。皮膚トラブルにも気を付け、就寝前には軟膏を塗布し、乾燥に気をつけている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが極端に崩れないような休息をとってもらったり、室内の室温調整や照明の調整を行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方された内服薬の説明書をいつでも見れる個人ファイルにいれ、確認するよう周知している。気になる事は薬剤師に質問している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いや歌、散歩や食べる事など一人ひとりが好きな事や得意な事を提供して気分転換を行えるよう支援している。		

2019自己・外部評価表(グループホームピアありた)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は近所への散歩でかけるよう努めている。定期に外出できる行事の機会を作っている。	天候の良い時は近隣へ散歩に出かける。帰宅願望がある時は、一緒に室見川あたりを一回りするなど、気分転換を行う。事業所周囲は自然も多く、散歩することで季節の移り変わりを感じ取ってもらう。定期に外出できる行事があり、花見、室見川散策、紅葉狩りなどを楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望によりご家族様からお預かりしているおこづかいで買い物ができるような支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様や家族様等から希望が有る場合には電話の取次ぎを行っている。また、年に1回、入居者様からご家族宛に年賀状作成を一緒に行い郵送している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて室内ディスプレイや園芸を変える事で季節感を目で感じていただくよう工夫している。室温や湿気の管理を行い、快適に過ごせる調整をしている。フロア内は落ち着いた電球色の照明で統一して対応している	木目調のフロアには季節に合わせたディスプレイがされ、季節感を感じられるように工夫してある。室温や加湿の管理を行い健康に留意している。各部室に通じる通路は幅が広くゆっくりとしている。イチゴの苗が植えられ、水やりを行い、実をつける季節を楽しみにしている。窓からは遠くに山が見え、居心地の良い心穏やかな風情が見られる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今までの生活歴や性格を考慮して入居者様同士がコミュニケーションを取りやすい席の配置を考えている。また、ご自分の席とは別にソファを設置して自由に座れるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使われていた家具や思い出の品、写真等を持って来て頂き、自宅に近い環境を作り安心して過ごせるようにしている。	カーテン、クーラー、クローゼット、ベッドなどが備え付けられている。家族がくつろげるソファが置かれたり、家族の写真、ぬいぐるみなども置かれ、自宅での思い出の品を側に、安心して、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」の範囲をアセスメントにて把握して、各職員は心身や周りの環境、状況に応じての介助を提供し、安全にご生活ができるよう支援している。		